

令和3年度

菰野町教育委員会

事務事業点検及び評価報告書

令和4年8月

菰野町教育委員会

目 次

I	令和3年度点検及び評価実施方針	1
	1 趣旨 2 点検及び評価の対象 3 点検及び評価の方法	
II	教育委員会の運営状況	2
	1 教育委員会	2
	2 令和3年度菰野町教育方針	4
	3 事務局体制	5
III	事務事業の執行状況	6
	1 学校教育	6
	(1)豊かな人間性を育む教育の推進	6
	①人権教育の推進 ②道徳教育の推進	
	③いじめや暴力を許さない子どもたちの育成 ④安心できる集団づくり	
	⑤読書活動の推進 ⑥郷土教育の推進	
	(2)確かな学力と社会参画力を育む教育の推進	8
	①学力の育成 ②特別支援教育の推進 ③幼児教育の充実	
	④国際理解教育の推進 ⑤情報教育の推進 ⑥キャリア教育の推進	
	(3)健やかな体を育む教育の推進	10
	①健康教育の充実 ②体力、運動能力の向上 ③食育推進事業	
	(4)信頼される学校づくり	11
	①開かれた学校づくりの推進 ②教職員の資質向上	
	③子どもたちと向き合う時間の確保 ④安全教育の推進と学校施設、設備の充実	
	2 社会教育	15
	(5)地域全体で取り組む家庭教育と青少年健全育成の充実	15
	①家庭の教育力の向上 ②地域における青少年活動の推進	
	③現代社会を生き抜く青少年の健全育成 ○青少年活動支援推進事業	
	(6)活力ある地域社会の構築に向けた生涯学習の推進	15
	①生涯学習推進体制の確立	
	○生涯学習推進事業 ・よもやま歴史教室 ・かもしかライフカレッジ	
	○教育委員会主催人権教育事業 ○教育委員会主催文化事業	
	○教育委員会支援文化事業 ○国際交流事業	
	②公民館機能の充実 ○公民館教室及び講座	
	③図書館サービスの充実	19
	ア)図書館事業 イ)催事室利用状況 ウ)ギャラリー利用状況	
	エ)令和3年度図書館貸出等の状況 オ)研修等の受け入れ実績	
	(7)健やかな心身をつくる生涯スポーツの推進	24
	①スポーツ活動の機会と教室、大会などの充実	
	②スポーツ団体の育成や指導者の養成、支援	
	③スポーツ施設の整備、充実	
	(8)豊かな文化の継承と創造	25
	①芸術文化活動への支援と交流の促進	
	②有形と無形の文化財や歴史的資産の保存と活用 ③郷土愛の育成	
IV	評価委員会の意見	

資料編

I 令和3年度点検及び評価実施方針

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、菰野町教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検及び評価」）を実施する。

2 点検及び評価の対象

令和3年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況のうち、令和3年4月1日から令和4年3月31日までに実施したものとする。

3 点検及び評価の方法

(1) 自己点検評価

菰野町総合計画を踏まえた菰野町教育大綱、菰野町教育振興基本計画及び令和3年度菰野町教育方針に基づき、令和3年度の教育委員会の運営状況、事務事業の執行状況について点検及び評価を行う。

(2) 学識経験者等の知見の活用

菰野町の教育に関して知見を有する次に掲げる者から、教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴き、本書に記載する。

(知見者)

氏 名	職業（前職含む）
小 林 浩 司	建設会社社長
伊 達 恭 子	元小学校長

(3) 議会への報告

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに町ホームページへの掲載等により公表する。

II 教育委員会の運営状況

1 教育委員会

教育委員会では、教育長と4名の教育委員により委員会を開催し、規則等の制定や生徒指導事案など重要な案件を審議した。また、研修会への参加や、視察研修を実施するなど、委員の資質向上に努めるとともに、学校訪問を実施し、学校運営の状況などについて現地で説明を受け、指導及び助言を行った。更に総合教育会議において、教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策についての協議を行った。

(1) 委員構成

役職名	氏名	住所	任期
教育長	北口 幸弘	菰野	平成31年4月1日就任 令和4年9月30日まで
教育長職務代理者	近藤 保則	池底	平成28年10月1日就任 令和5年9月30日まで
委員	岡島 由香里	田光	平成21年10月1日就任 令和7年9月30日まで
委員	石倉 雅孔	大羽根園	平成30年10月1日就任 令和4年9月30日まで
委員	水谷 裕康	竹成	令和2年10月1日就任 令和6年9月30日まで

(2) 教育委員会の開催状況

開催数： 定例会 11回、 臨時会 4回

(3) 委員研修状況

実施日	研修先	研修場所	研修内容
11月2日	津市	三重県総合文化センター	三重の教育談義 「今、求められるスクールリーダーとは」
11月15日	いなべ市	いなべ市立藤原小学校・中学校	小中一貫教育校の視察研修

(4) 学校訪問

- ・(前期) 6月29日 鶺川原小、千種小、菰野中
- ・(後期) 11月8日 菰野小 11月15日 竹永小、朝上小、八風中

(5) 総合教育会議

- ① (第1回) 6月24日
 - コロナ禍における学校運営について
 - 学校給食について
 - 国民体育大会について
 - いじめ問題対策調査委員会の調査結果について

- 中学校部活動の活性化と教職員の働き方改革について
- 菰野町教育大綱・菰野町教育振興基本計画の見直しについて
6つの議題について現状の報告及び課題の協議

② (第2回) 2月28日

- 菰野町教育大綱の見直しについて
- 菰野町教育振興基本計画の見直しについて
2つの議題について現状の報告及び課題の協議

(6) 委員会の主な審議内容

- ① 第4回教育委員会 (R3. 4. 22)
 - 令和3年度菰野町奨学金貸付について
 - 令和3年度菰野町学校運営協議会委員委嘱について
- ② 第5回教育委員会 (R3. 5. 27)
 - 菰野町議会第2回臨時会の上程議案について
 - 菰野町立中学校部活動指導員設置規則の制定について
- ③ 第6回教育委員会 (R3. 6. 24)
 - 菰野町議会第2回定例会について
- ④ 第7回教育委員会 (R3. 7. 16)
 - 令和4年度使用中学校用教科用図書(社会歴史的分野)の選定にかかる採択協議会結果について
 - 令和3年度菰野町奨学金貸付(追加)について
- ⑤ 第1回臨時教育委員会 (R3. 8. 26)
 - 新型コロナウイルス感染拡大による小中学校の対応について
- ⑥ 第2回臨時教育委員会 (R3. 9. 7)
 - 新型コロナウイルス対応について
- ⑦ 第8回教育委員会 (R3. 10. 1)
 - 役員改選等について
 - ・仮議席の指定について
 - ・菰野町教育委員会教育長の職務を代理すべきものの指名について
 - ・菰野町教育委員会の議席決定について
 - 菰野町議会第3回定例会の報告について
 - 菰野町一時預かり(幼稚園型)事業実施要綱の一部を改正する告示について
 - 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業等の利用者負担に関する規則の一部を改正する規則について
 - 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業等の実費徴収に関する規則の制定について
- ⑧ 第9回教育委員会 (R3. 11. 8)
 - 機構改革について
 - 視察研修について
- ⑨ 第3回臨時教育委員会 (R3. 11. 24)
 - 菰野町教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例について
 - 教育委員会事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則について
 - 菰野町青少年問題協議会設置条例を廃止する条例について
 - 菰野町公民館条例の一部を改正する条例について

- ⑩ 第10回教育委員会（R3.12.24）
 - 菰野町第4回定例会について
 - 菰野町少年補導員設置要綱の一部を改正する告示について
 - 菰野町立小中学校卒業式告辞について
- ⑪ 第1回教育委員会（R4.1.28）
 - 教育振興基本計画について
- ⑫ 第2回教育委員会（R4.2.17）
 - 教育振興基本計画について
- ⑬ 第3回教育委員会（R4.2.28）
 - 教育委員会公告式規則の一部改正について
 - 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業等の実費徴収に関する規則の一部を改正する規則について
 - 菰野町就学援助費交付要綱の一部を改正する告示について
 - 令和4年度菰野町学校教育指導方針について
 - 校長・教頭等異動内申について
 - 教諭等異動内申について
 - 令和4年度「菰野町ふれあい教室」運営要項について
 - 令和4年度いじめ不登校対策事業について
 - 菰野町特別支援教育巡回コーディネーター配置要項について
- ⑭ 第1回臨時教育委員会（R4.3.22）
 - 令和4年菰野町議会第1回定例会について
 - 菰野町教育委員会事務局組織に関する規則の一部を改正する規則について
 - 菰野町教育委員会規則で定める申請書等の押印の特例に関する規則の制定について
 - 菰野町教育委員会告示で定める申請書等の押印の特例に関する告示の制定について
- ⑮ 第4回教育委員会（R4.3.28）
 - 教育委員会事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則の一部を改正する規則について
 - 菰野町立学校職員安全及び衛生管理に関する規程の一部を改正する告示について
 - 菰野町立小中学校事務処理等規程の一部を改正する告示について
 - 菰野町スポーツ推進委員に関する規則等を廃止する規則の制定について
 - 社会教育施設整備補助金交付に関する要綱等を廃止する告示の制定について
 - 菰野町スポーツ功労・奨励表彰要綱等を廃止する告示の制定について
 - *委員会審議において、上記の議案、事項以外にも学校教育所管事項及び社会教育所管事項等について審議を行っている。

2 令和3年度菰野町教育方針

(1) 学校教育

「新しい時代をたくましく生きる子どもの育成」

・小中学校【資料2】

教育課題を的確にとらえ、子どもを主体にした創意ある教育課程の編成に努め、家庭、地域社会との確かな連携のもと魅力ある教育活動の推進を図る。

・幼稚園

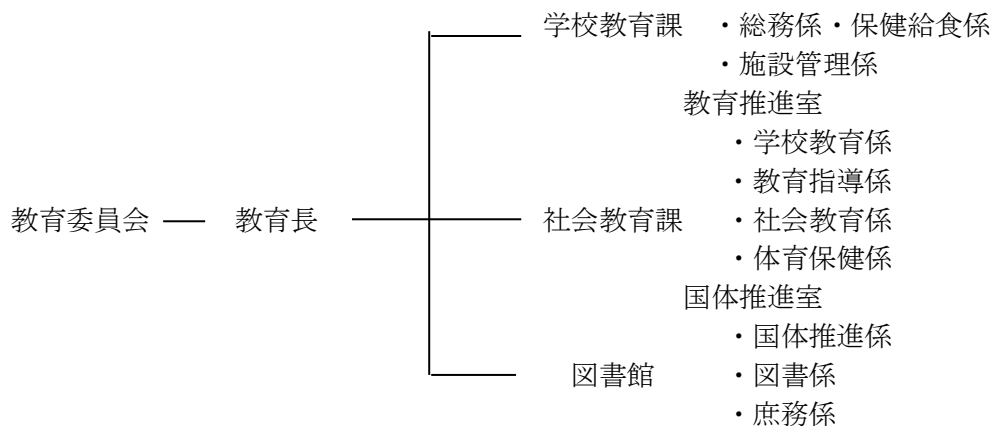
自発的な活動と遊びを通して、総合的な指導により人間形成の基礎を培う。遊びを中心とした生活を通して、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度が身につくようにする。

(2) 社会教育

「生涯学習の理念に基づいて幼児期から高齢者に至るすべての住民に少しでも多くの学習の場と機会を確保しながら健康で心豊かな人づくり、地域に根ざした町づくりの実現に努める。」

3 事務局体制

(1) 事務局組織【資料1・9】



(2) 職員数の状況（常勤職員）

R3.4 現在

課名	課長	室長	課長補佐	係長	係	会計年度任用	その他 (国際交流員)	合計
学校教育課	1	1		4	4	5	1	16名
社会教育課	1			2	6	1		10名
図書館	1		1		1	9		12名
合計	3	1	1	6	11	15	1	38名

(3) 外部職員数【資料4】

(4) 教育予算の推移（決算） *学校教育には教育総務費、奨学金、幼稚園費を含む (単位：千円)

区分	H29	H30	R1	R2	R3
学校教育	1,035,445	969,522	1,352,084	1,058,235	1,188,980
社会教育	270,118	634,063	234,730	259,207	197,469
図書館	77,731	81,504	76,112	81,289	84,088
合計	1,383,294	1,685,089	1,662,926	1,398,731	1,470,537
町一般会計	12,677,413	12,487,879	12,517,061	17,645,081	15,021,599
教育費割合%	10.9%	13.5%	13.3%	7.9%	9.8%

Ⅲ 事務事業の執行状況

1 学校教育

(1) 豊かな人間性を育む教育の推進

① 人権教育の推進

各学校が策定した「人権教育推進計画」に基づき、子どもたちの人権尊重の意識と実践力を養うため、教科等指導や生徒指導、学校経営などの教育活動全体を通して、一人ひとりの存在や思いが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」をめざし、町内すべての小中学校で、子どもたちの発達段階に応じた「人権教育カリキュラム」を作成し取組を進めた。

また、人権意識を培うための学校教育のあり方について、三重県教育委員会人権教育課と連携し、幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導法等の改善及び充実に努めた。令和3年度の三重郡人権・同和教育研究協議会研究推進校である竹永小学校において研究発表会が開催され、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、北勢教育支援事務所より外部講師を招き、先生方とともに研修を深めた。

② 道徳教育の推進

各学校では、学校や子どもたちの実態に基づき、道徳教育の全体計画等を作成し、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を実施した。各教科や総合的な学習の時間及び特別活動等においては、それぞれの特質を生かしながら、生命を尊重する態度、我が国の伝統や文化、郷土を愛する心等、子どもたちの道徳性が養われる教育活動を推進した。

道徳科においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を子どもたちに育成するために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめたり、物事を多面的及び多角的に考えたり、自己の生き方について考えたりする学習場面を重視した授業を推進した。また、子どもたちが日常的に情報機器を用いる環境に対応するため、道徳科の授業において、情報モラルに関する指導の充実に努めた。

③ いじめや暴力を許さない子どもの育成

「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校教育に携わるすべての関係者がいじめの兆候をいち早く把握して迅速に対応するよう、学期に1回以上のアンケート調査や個別面談等により、いじめの早期発見、早期対応に努めた。いじめ問題の根本的な解消に向けて子どもたちの人権感覚を高め、思いやりの心や個性を認め合う力を育成し、さらには違いを多様性として理解する力を培い、「いじめを許さない心」を育むとともに「いじめを許さない」「見て見ぬふりをしない」ことが自然で当然な価値観とされるよう取組を進めた。また、情報モラル教育やリスク管理を推進するとともに、教職員や保護者等の情報技術に対する対応力の向上を図り、いじめを含むネットトラブルの未然防止や早期発見、早期対応にも努めた。

菰野ふれあい教室を町単独事業として「三重県民の森ふれあいの館」で週3回、指導員2名体制で実施した。令和3年度は小学生3名と中学生7名が入級した。個別指導を中心に基礎学力定着のための学習支援に努めるとともに、教育相談セラピストも年15回派遣し、不登校児童生徒（保護者を含む）の相談に応じてきた。

教育委員会事務局に非常勤の教育相談員を配置し、教育相談にあたってきた。令和3年度は、面談29件（来所27件・巡回1件・訪問1件/昨年度計43件）、電話による相談1件（昨年度9件）となっている。相談内容の主なものとしては、不登校の問題

や学校生活への適応を含めた学業や進路について等であった。なかでも相談内容として一番多かったのは、個別の指導や支援が必要な児童生徒についての相談で、カウンセラーや子ども家庭課と連携して発達検査も実施しながら支援の方向を考えたものは39件あった。

不登校児童生徒数は、小学校で18名（前年度16名）、中学校で34名（前年度40名）と、小学校で2件の増加、中学校で6件の減少となった。不登校の原因は種々様々である。教育相談員や菰野ふれあい教室指導員が学校の不登校対策委員会に出席するなど学校と連携し、また各学校においては関係機関等と情報の共有を図りながら指導及び支援にあたってきた。

（町不登校児童生徒数）

人、（ ）内は%、R3は暫定値

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
小学校	20(0.84)	16(0.68)	17(0.71)	18(0.76)	16(0.67)	18(0.74)
(全国平均)	(0.47)	(0.54)	(0.70)	(0.83)	(1.0)	
中学校	37(3.10)	47(4.09)	43(3.78)	46(4.05)	40(3.56)	34(3.0)
(全国平均)	(3.01)	(3.25)	(3.65)	(3.94)	(4.09)	

④ 安心できる集団づくり

学校においてはすべての子どもたちにとって居心地の良い学校となるように、子どもたちに対する観察と教育相談に加えて、子どもたちの内面を知ることのできる「楽しい学校生活を送るためのアンケート調査（hyper-QU調査）」を実施するなど、さまざまな観点から子どもたちの実態を把握し、日常の学級指導や特別活動などにおいても集団づくりの取組を進めた。

児童生徒の悩みを積極的に受け止めることができるようにするため、令和3年度もスクールカウンセラーや生徒指導推進協力員、スクール相談ネットワークを町単独で配置し、生徒指導體制の確立に努めた。学校内の巡回や問題行動等の予兆の早期発見、未然防止、保護者への支援等の取組を進めてきた。各校の状況をスクール相談ネットワークと情報共有し、子ども家庭課や児童相談所、四日市西警察署、三重県教育委員会のスクールソーシャルワーカーや生徒指導特別指導員等の関係機関と連携して、適切な指導に努めた。

⑤ 読書活動の推進

読書活動を通して、子どもたちの感性を磨き、表現力や想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけさせる等の豊かな心の育成に取り組んできた。また、読書活動は主体的な学びや読解力、言語能力、創造力を育む重要な学習活動である。学校においては、一斉読書や読み聞かせ、家庭読書の啓発に努めた。

平成28年度より町内すべての小中学校へ菰野町図書館司書が月2回の巡回訪問を行い、菰野町図書館と学校が連携し、学校図書館の環境整備に努めている。子どもたちが新しい情報に触れることができるよう、刊行後の時間の経過とともに古くなった情報が記載された図書等について、環境、キャリア教育、情報化社会等に関する図書を中心に、計画的に更新を行っている。また、文学や読み物漫画に偏ることなく、自然科学や社会科学等の分野の図書資料の割合を高める等、子どもたちや教職員のニーズを把握しながら、調和のとれた蔵書構成になるよう選定に努めている。

(学校図書館の整備状況)

R4.3

	実学級数	図書標準数	R3年度末蔵書数	達成率
菰野小学校	39 学級	13,840 冊	17,659 冊	1.275
千種小学校	13 学級	8,360 冊	10,233 冊	1.224
朝上小学校	18 学級	10,360 冊	14,259 冊	1.376
鵜川原小学校	14 学級	8,760 冊	10,553 冊	1.204
竹永小学校	17 学級	9,960 冊	11,420 冊	1.146
菰野中学校	22 学級	14,880 冊	16,529 冊	1.110
八風中学校	14 学級	11,680 冊	15,710 冊	1.345

⑥ 郷土教育の推進

自分たちが育ってきた地域を大切に守っていこうとする心や地域に貢献しようとする態度を養う等、郷土について考える機会を充実させていくために、地域の教育資源を活用したり、「わたしたちのまち菰野町」(小学校社会科副読本)を活用したりして、「郷土を知り、郷土から学ぶ」学習活動を推進した。これらの学習活動には、各校の学校運営協議会(菰野町コミュニティ・スクール)の取組とも関連づけながら、郷土教育を実施することができた。

(2) 確かな学力と社会参画力を育む教育の推進

① 学力の育成

きめ細かな個に応じた学習指導の充実を図るため、非常勤講師を町単独で各学校に配置し、小学校3年生～6年生の算数科と、中学校では2年生と3年生の数学科及び英語科で少人数指導を継続的に行っている。

小学校6年生と中学校3年生を対象に「令和3年度全国学力・学習状況調査」が実施された。調査問題には、子どもたちに「どのような資質や能力を身に付けなければならないのか」、そのために「どのような授業を行えばよいのか」を示すメッセージとなる問題が出題されている。各校では、調査問題の分析、調査結果からみられた課題(子どもたちがどこでつまづいているのか)の分析を実施し、学習指導の改善及び充実の取組を推進した。

小学校4年生と5年生、中学校1年生と2年生を対象に「みえスタディ・チェック」を実施し、各校において、調査結果から見られた課題の分析を行い、学習指導の改善に取り組んだ。また、三重県教育委員会による「みえスタディ・チェック」の取組が、平成28年度から小学校5年生と中学校2年生については年間2回実施することに伴い、三重郡内の小中学校で継続的に実施している標準学力検査(CRT検査)の実施学年を、小学校5年生と中学校2年生から小学校4年生と中学校1年生に変更した。小学校4年生では国語科と算数科で、中学校1年生では国語科、社会科、数学科、理科、英語科の5教科で実施した。検査結果を三重県教育振興会学校教育部会で分析し、児童生徒の学力の定着状況を把握して各校の指導方法の工夫及び改善に繋げた。

教職員の授業力向上については、新学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進するために、授業をつくるためのポイントをまとめたリーフレット「菰野町授業づくりマスター」を各校に配付し、授業づくり研修の推進を促した。また、三重県教育委員会北勢教育支援事務所の支援を受けて、新学習指導要領に基づく資質及び能力育成のための授業研修を各学校において行った。令和3年度より竹永小学校において県の「ICTを活用したわかる授業推進事業」を受け、三重県教育委員会と連携しながら算数科における習熟の程度に応じた1人1台学習端

末を活用した効果的な指導方法についての研究を行った。

② 特別支援教育の推進

特別な支援が必要な児童生徒について、各校で校内特別支援委員会を組織し、校内のコーディネーターが中心となり児童生徒への支援のあり方について組織的に検討した。その際、町内に2名配置している菰野町特別支援教育巡回コーディネーターを派遣し、助言する体制も整えた。対象児童生徒については、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成したうえで適切な指導及び支援を行った。また、特別支援教育支援員14名を各学校の状況に応じて配置し、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒への支援にあたってきた。さらに、子ども家庭課とも連携し、個別の指導や支援が必要と思われる児童生徒について、みえ発達障がい支援システムアドバイザーに助言を求めたり、アドバイザーが対象となる児童生徒へ直接対応したりすることで、学校での指導及び支援に活かしてきた。

菰野町立の小学校に在籍する発達障害のある児童の学習上または生活上の困難を改善し克服するために、令和2年度に竹永小学校に通級指導教室「ほっとルームたいよう」を開設した。令和3年度は11名の児童が「ほっとルームたいよう」での通級指導を受けた。また、通級指導に関して高い専門的知見や経験を有する者を通級指導教室アドバイザーとして任用し、通級指導担当教員への助言や援助を行い、発達障害のある児童への指導や支援の専門性の向上を図った。

特別支援学級在籍児童生徒への指導及び支援については、校内研修会等で全教職員が授業を参観し情報を共有したり、菰野町巡回コーディネーターが訪問し、指導及び支援のあり方について助言したりしてきた。また、35名の介助員を学校の状況に応じて配置し、特別支援学級に在籍する児童生徒への支援にあたってきた。

菰野町就学支援委員会では、対象となる園児、児童及び生徒の観察や聞き取りを行い、あわせて保護者の就学相談も行うことで、子どもや保護者のニーズに合ったよりよい就学支援を目指している。

③ 幼児教育の充実

就学前教育と保育の両方を提供する幼保一体施設の運営を継続して行い、町内全ての小学校区で保護者のニーズに寄り添った就学前教育及び保育、幼児教育の充実に努めた。幼保一体化幼稚園の全てにおいて3歳児保育を実施している。

各中学校区の校園長会議や子ども支援ネットワーク会議の中で、保幼小中の連携を目的とした研修会をもち、学校や園の状況、教育課題、指導方法等についての共通理解を深めることができた。また、幼児教育が小学校教育開始の大切な準備段階であることから、保幼小の相互の活動を、園児と児童が体験したり職員が参観したりすることで、交流を行ってきた。なお、令和3年度は新型コロナウイルスの影響により、キャリア教育の一環としての職業体験学習を行うことはできなかったが、今後も学びの連続性を考慮した保幼小中の連携を深めていく。

④ 国際理解教育の推進

小中学校の外国語教育の充実を図るために、ALT（外国語指導助手）2名を小中学校に派遣してきた。令和2年7月に1名が任期を終えて帰国したが、新型コロナウイルス感染症の影響により新しいALTの来日が困難な状況となったため、令和3年10月までは1名のALTを小学校に派遣した。11月からは2名体制となり、小中学校に派遣し、子どもたちがネイティブの英語音声に親しむ機会の確保に努めた。

新学習指導要領により小学校5年生と6年生に導入された外国語科において、英語

を用いて「何ができるか」という観点から、子どもたちの学習状況を的確に把握し、適切な指導を行うために、小学校において CAN-DO リスト（学習到達目標）の作成を行った。中学校では、授業を実際のコミュニケーションの場面とするために、英語で行うことを基本とし、また、実際のコミュニケーションにおいて活用できる英語力を育成するために、CAN-DO リストに基づき、言語活動を重視した授業を実施した。

⑤ 情報教育の推進

各学校が ICT を活用した教育の考え方と進むべき方向性について共通のビジョンを持ち、より効果的な環境整備と活用方法を模索しながら、教育の質の向上を図っていくために、国の GIGA スクール構想の方針を踏まえた「菰野町学校 ICT 教育推進計画」を策定し、学校に示した。また、7校が共通の方向を向いて菰野町の情報教育を推進していくために、定期的に情報担当者会議を開催し、ICT の環境整備や活用方法について協議を重ねた。

情報活用能力を子どもたちに育成するために、「基本的な操作等の学習」「問題解決における情報活用の学習」「プログラミング学習」「情報モラル・情報セキュリティの学習」の4つの学習に分けて、育成すべき情報に係る資質や能力をまとめた「学年別情報活用能力段階表」を各学校に示した。また、新学習指導要領で小学校においてプログラミング教育が必修化されたことを受け、プログラミング教育が各校において確実に実施されるよう、発達段階に応じたプログラミング学習教材の系統表を各学校に示した。各学校はそれらに基づき、情報活用能力育成のための年間指導計画を作成し、見直しをもって情報教育を推進した。

児童生徒一人一台タブレット端末を導入し、令和3年8月末に子どもたちに貸与した。一人一台端末を効果的に活用した授業を推進するために、学習支援ソフトについての教職員研修会を各校に出向いて実施した。また、ICT 支援員を各学校へ派遣し、教員と子どもたちへの ICT 機器等に関する技術面等の支援を行った。

⑥ キャリア教育の推進

各教科及び道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全体を通して、かつ他の教育活動とのバランスに配慮しながら、汎用性のある学力、コミュニケーション能力、忍耐力、規範意識、マナー、働く者の権利や義務についての理解、男女共同参画を重んずる態度等、社会的、職業的自立に必要な能力の育成を図った。特に中学校においては、子どもたちが望ましい勤労観や職業観を持ち、主体的に進路を選択する能力を身につけていくことをめざし、職場体験学習を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は中止とした。

(3) 健やかな体を育む教育の推進

① 健康教育の充実

子どもたちが自分自身を価値ある存在と認めて自分を大切に思う自尊感情を育むなど、教育活動全体を通して命の教育に取り組んだ。また、性に関する教育やがん教育、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室等、子どもたちの健康課題については、子どもたちの発達の段階に応じて、体育や保健体育の教科を中心に養護教諭や栄養教諭なども連携し、学校の教育活動全体を通じた健康教育を実施した。養護教諭により保健だより等を発行し、児童生徒だけでなく、保護者に対しても健康教育の啓発を行った。

② 体力、運動能力の向上

学校体育では、体育や保健体育の授業及び運動部活動、スポーツ行事など、学校教

育活動全般を通して、子どもたちが運動やスポーツの楽しさ、喜びを体験し、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うものとして充実を図ってきたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止を講じながら各校で工夫をし、進めた。

児童生徒一人ひとりがそれぞれの能力と適性に応じて、運動の課題を自ら解決することによって運動の楽しさや喜びを味わうとともに、運動の技能を高めることができるように授業づくりを進めた。

また、「三重県児童生徒の体力・運動能力調査」については、調査対象の児童生徒だけでなく、全学年の児童生徒に対し体力測定を実施して、早期からの子どもたちの体力向上に向けた取組を行っている。

③ 食育推進事業

望ましい食習慣の形成、食に関する正しい知識の習得、さらにはその知識に基づいて食品の品質および安全性について自ら判断できる能力の育成を図った。また、栄養教諭などを中心に、校内で「食に関する指導」の計画を立て、学校教育全体を通して望ましい栄養や食事の摂り方、食に関する正しい知識等、指導内容の充実を図った。

本年度も菰野小学校、朝上小学校に栄養教諭を配置し、所属校が属する中学校区のすべての小中学校も担当し、小学校1年生から中学校3年生までのそれぞれの発達段階に応じた食育指導を、担任や養護教諭と連携して実施した。

また、小学校では給食だよりを定期的に発行し、児童だけでなく保護者に対しても食育の啓発等に取り組んだ。

その他には、令和2年度に設置した菰野町学校給食検討会で、全員喫食の中学校給食実現に向けて、食育の観点からも協議を重ねた結果、「小中学校給食の在り方検討結果報告書」が提出された。

(4) 信頼される学校づくり

① 開かれた学校づくりの推進

菰野町においては、平成29年度より町内すべての小中学校でコミュニティ・スクールをスタートさせた。

菰野町学校教育指導方針の一つである「地域とともにある学校づくり」を基本として、各学校で地域性や子どもたちの状況に応じた特色ある学校経営がなされるよう、各校の学校経営方針を学校づくりビジョンに位置づけている。学校づくりビジョンは、学校だよりや各校のホームページ等を活用して公開している。また、児童生徒や保護者、教職員を対象とした学校評価についても同様に情報公開を行っている。

学校マネジメントシステム（学校自己評価・学校関係者評価）やコミュニティ・スクール等を活用することで、保護者や地域住民が学校運営に参画する機会を増やしている。さらに学校公開週間を通して日頃の教育活動を広く公開するとともに、地域の人材を活用した外部講師（ゲストティーチャー）を教育活動の中に取り入れたり、中学生が地域のふれあいまつり等にボランティアとして参加するなど、地域と学校の双方向の連携を図り、地域に信頼される「地域とともにある学校づくり」に努めた。各学校においては、これまでの地域と連携した取組が組織的に活動できるようになり、これらの取組を通して地域の方々や児童生徒にとってよい刺激となるなど、学校品質の向上につなげることができた。

また、子どもたちの登下校の安全確保のために、学校とPTA等が協力して通学路点検を行った。さらには、教育委員会や関係行政機関、警察と連携して登校時の見守り等を実施した。

② 教職員の資質向上

日常的に OJT による人材育成を行い、授業の進め方や生徒指導のあり方等の具体的な課題について同僚との議論を通して互いの力を磨こうとする「育てる文化」をつくりながら教職員としての資質の向上を図った。また、教職員同士の対話を重視し、互いに認め合える職場づくりをめざすとともに、学校の課題を共有し解決していくために、組織として対応する教職員集団を育成し、学校組織の活性化を図った。若い教員が増加する中で、教職員の育成については、学力向上アドバイザーを町単独で各校の要請に応じて派遣し、授業力の向上等の支援を進めている。

③ 子どもたちと向き合う時間の確保

教員による日常的な児童生徒との関わりに加え、教育相談等を定期的を実施し、児童生徒の思いの把握や信頼関係の構築に努めた。

また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置や図書館司書の訪問時間や回数を増やすなどの専門職種の学校への導入を積極的に推し進め、子どもたちと向き合う時間が生み出せるよう、サポートしてきた。また、より専門的なスタッフの知識やスキルを活かし、教育の質を一層高めることができた。

④ 安全教育の推進と学校施設、設備の充実

子どもたちがさまざまな事件や事故及び災害等から自らの命を守るために、あらゆる教育活動の中に安全教育（生活安全〈防犯を含む〉教育、交通安全教育、防災教育）を位置づけ、関係機関や団体等と連携しながら、子どもたち自らが危険を予測したり回避する力の育成に努めた。

施設整備事業としては、朝上小学校、鵜川原小学校及び菰野中学校の電話交換機更新工事を行った。

また、小中学校の児童生徒に一人一台のタブレット端末を整備し、ICT 教育の推進に努めた。その他には、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、昨年度に引き続き、感染症防止に役立つアルコール消毒薬などの消耗品等の充実に努め、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう学校施設整備を行った。

(施設整備事業の概要)

工事名	請負業者	請負金額	工期	工事概要
朝上小学校 電話交換機更新工事	西日本電信電話 株式会社	4,246,000 円	12月10日 ～ 3月31日	電話交換機 更新工事
鵜川原小学校 電話交換機更新工事	西日本電信電話 株式会社	2,563,000 円	12月10日 ～ 3月31日	電話交換機 更新工事
菰野中学校 電話交換機更新工事	西日本電信電話 株式会社	4,147,000 円	12月10日 ～ 3月31日	電話交換機 更新工事

[主な修繕内容]

- 菰野小学校 : 消防用設備修繕、B館東昇降口サッシ修理工事、A館2階東渡り廊下雨漏り修繕、特別教室照明器具取替修繕、体育館用加圧給水ポンプユニット修繕、校長室写真台座修理、給食室スイングドアゴムパッキン修繕、給食室床塗膜除去工事、A館階段ノンスリップゴム取替、校長室照明器具修繕、北棟2階教室照明器具LED化工事
- 千種小学校 : 校庭整備修繕、ガス式食器消毒保管庫修理、高架水槽塗裝修繕、体育館北側引戸修繕、地下駐車場出入口舗装修繕、消防用設備修繕、来賓玄関雨漏り修繕、給食室排水管洗浄工事、高圧引込開閉器更新他工事
- 朝上小学校 : 給食室牛乳保冷库修理、南校舎1階便所前廊下床修繕、外部手洗い場照明器具取替工事、プールろ過機修繕工事、体育館伸縮式バスケットゴール修繕、職員室西側空調設備修繕工事、給食室ガス回転窯修繕
- 鵜川原小学校 : 2階渡り廊下雨漏り修繕、体育館南側側溝修繕工事、駐車場排水柵修繕、図書室及び音楽室ガラスビート交換工事、1階相談室壁掛空調機更新工事、緊急地震速報端末親機交換
- 竹永小学校 : 給食室ガス回転釜修理、体育館内装材修繕工事、児童昇降口校章修繕、運動場東防砂ネット取替、照明器具修繕、給食室真空冷却機修理、ホワイトボード修繕、電気設備改修工事、
- 菰野中学校 : 体育館軒樋及び軒天井修繕工事、理科室遮光カーテン取替修理、プログラムタイマー付親時計更新工事、プールろ過機修繕工事、職員室化粧台取替工事、1階配膳室排水管詰まり修繕工事
- 八風中学校 : 職員駐車場東側等ネットフェンス修繕、昇降機冠水復旧工事、各所外部照明修繕、ガラス取替及び窓ガラスビート交換工事、高圧引込開閉器更新他工事、体育館間仕切りネット操作ロープ取替

【評価と今後の方向】

令和3年度においても、菰野町総合計画の方向性を踏まえて策定された教育大綱、菰野町教育振興基本計画に基づき教育活動を行った。この基本計画では、学校教育においては、菰野町の基本目標である「元気で心豊かな人が育つまち」をまちの将来像とし、「豊かな人間性」「確かな学力と社会参画力」「健やかな体」を基盤とした、『新しい時代をたくましく生きる子どもの育成』を目指すものとなっている。個別の主な事業についての評価と今後の方向については、以下のとおりである。

町内の不登校児童生徒数については、令和3年度は小学校で2件の増加、中学校で6件の減少となったものの、依然として不登校率が高い状況が続いている。学校の支援室や放課後登校、菰野ふれあい教室での学習を通して、自己肯定感や自尊心の育成を図り、徐々に自己実現に向けての成果を上げている子どももいるが、不登校及び不登校傾向が長期化してしまっている児童生徒もおり、不登校への対応も重要であるが、未然防止の取り組みの充実が必要である。子どもたち一人ひとりの状況に応じた多様な学びの場の提供が求められるなか、引き続き不安や悩みを受け止められる体制作り

(教育相談の充実、「楽しい学校生活を送るためのアンケート調査 (hyper-QU 調査)」等の取組、カウンセラー等の配置、教職員のカウンセリングマインド研修等)の充実を進める。

読書活動の推進については、一斉読書の取組、図書標準数達成に向けての書架整備、「みえの学力向上県民運動」の一つである「家読 (うちどく)」など読書活動の充実に取り組んできている。今後も、家庭、図書館司書と積極的に連携し、学校図書館の環境整備や家庭読書を推進していきたい。

学力の定着に向けて、町単独で各学校に少人数指導非常勤講師を配置し、少人数授業を小学校3～6年生の算数科で、中学校では2年生と3年生の数学科及び英語科で実施し、児童生徒一人ひとりにきめ細かな個に応じた指導をしてきている。今後も引き続き小学校の算数科と中学校の数学科及び英語科に重点をおいた少人数授業の推進を図り、基礎学力の定着ときめ細かな指導を目指していく。

これまで「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チェック」「CRT 標準学力検査」を通して、各学校で学力調査の結果を分析し、課題を明らかにして、授業改善に取り組んできた。また、学年末には取組の検証も行った。「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」については、今後も調査結果の分析を実施し、授業改善につなげられるようにしたい。また、調査結果については経年推移からも分析し、有効に活用していく。

特別支援教育については校内特別支援委員会の中で、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援を推進するために、個別の教育支援計画や指導計画を作成して、保護者や関係機関との連携を図り、児童生徒の指導及び支援にあたってきた。就学前、小学校、中学校と途切れのない支援体制を整えるため、子ども家庭課との連携を強めるとともに、町内2名の特別支援教育巡回コーディネーターを各学校からの要請に応じて派遣し、就学相談等の充実を図ってきた。今後も、途切れのない支援体制の整備、関係機関との連携を充実させる。また、障害者差別解消法を受け、今後も学校現場における合理的配慮の提供についても各校と協議しながら取組を進めていく。令和2年度に竹永小学校に開設した通級指導教室「ほっとルームたいよう」については、通級指導担当教員の発達障害のある児童への指導や支援に係る専門性の向上を図ると共に、通級指導教室の指導や相談体制の維持及び向上を進めていく。

幼児教育については、令和元年10月より開始された幼児教育・保育の無償化に伴い、保護者の就労状況が変わり、子育て環境の変化、幼児教育や保育へのニーズの多様化が今後もさらに進む。また、幼稚園教育要領(平成29年改訂)や保育所保育指針(平成30年改定)に対応した幼児教育と保育の実現に向け、子ども家庭課と連携し、幼稚園教諭や保育士への研修の充実を図っていく。また、これまで進めてきたCLM(チェック・リスト・イン三重)や個別の指導計画、パーソナルカルテ(菰野町版)等の取組も活用し、保育園、幼稚園、こども園、小中学校の連携をさらに深める。

英語教育については、外国語指導助手(ALT)を活用し、小学校における外国語や外国語活動の授業力向上を推進する。

体力向上については、今後も、町内すべての小中学校において体力テストを実施し、その傾向と課題を分析しながら、基礎体力の向上に向けて取組を進めていく。

コミュニティ・スクールについては、各校での取組が充実してきている。今後も各校や地域の特色を生かした事業を進めていく。

学校施設、設備の充実については、安全安心な施設環境、学習環境の質的向上を図るため、朝上小学校、鶯川原小学校、菰野中学校の電話交換機更新工事を行った。また、小中学校の全児童生徒に一人一台のタブレット端末を整備し、ICT教育の推進に努めた。今後も児童生徒の利便性、快適性の向上に向けた対策を継続して進めていく。

2 社会教育

(5) 地域全体で取り組む家庭教育と青少年健全育成の充実

①家庭の教育力の向上

家庭教育講座として、防災ラジオなどを通じて啓発活動を行った。

②地域における青少年活動の推進

青少年健全育成を推進するため、地域における非行防止の環境づくりや補導活動等を支援した。

③現代社会を生き抜く青少年の健全育成

青少年育成町民会議を中心とした非行防止パトロール、あいさつ運動等を支援し、補助金を活用することで活動の場を広げ、町ぐるみでの青少年育成活動に取り組んでいるが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により例年実施している事業が中止となった。

○青少年活動支援推進事業

事業名	期日	対象	場所	人数
コボンタフェスティバル	6月27日	小中学生	町民センター ホール	中止
親子プロギングイベント	11月21日	親子	菰野町庁舎 町民センター周辺 (町民会議事業)	17組
書初め大会	1月8日	幼保園児 小中学生 一般	体育センター	77名
書初め大会作品展示	1月	〃	菰野町庁舎 1階ロビー	25作品
新春たこあげ大会	1月8日	親子	朝上小学校 (町民会議事業)	102名
育成者指導者研修会 家庭教育研修会	3月2日	一般	町民センター ホール	中止

(6) 活力ある地域社会の構築に向けた生涯学習の推進

①生涯学習推進体制の確立

新型コロナウイルス感染症の影響により、よもやま歴史教室や人権コンサート、かもしかライフカレッジ等、生涯学習の振興を図るための講座や講演会などを実施可能な範囲で行った。また、外国語指導助手により、隔月で国際交流会を開催し、町内における国際交流活動を推進した。

○生涯学習推進事業

よもやま歴史教室 2021

[主催]菟野町教育委員会/よもやま歴史サークル

回	通算	日時	内 容	講 師	人数
1	247	11月20日 14:00～	渋沢栄一は日本の「未来」に何を期したのか	千葉大学大学院 教授 見城 悌治	71名
2		1月22日 14:00～	考古学で問う天皇陵古墳 —箸墓古墳・大山古墳・野口王墓古墳—	NPO 法人東海学センター 理事長 今尾 文昭	中止
3		2月19日 14:00～	日本古代のマイナンバー制度 —戸籍・計帳と疫病対策—	愛知県立大学 教授 丸山 裕美子	中止

○かもしかライフカレッジ 2021

[主催]菟野町教育委員会/かもしかサークル

回	日時	内 容	講 師	人数
1	6月12日 14:00～16:00	しあわせに生きる魔法 ～生きてるだけで百点満点～	林 みち子	延期
2	7月3日 14:00～16:00	生涯スポーツを楽しみましょう ～大切な栄養と睡眠～	櫻井 智美	19名
3	8月13日 19:00～20:30	夏のほしぞら観望会	坂下星見の会	中止
4	8月28日 14:00～16:00	ふるさと菟野の方言	諸岡 時次	中止
5	10月23日 14:00～16:00	知って防ごう 悪質商法・特殊詐欺	中部 絵美	9名
6	11月14日 14:00～16:00	首都直下地震から学ぶ地域防災 ～地域で守る、万が一の震災に備えて～	大佛 俊泰	190名
7	12月12日 第1部 10:30～12:00 第2部 14:30～16:00	ウィンターコンサート	三重ユナイテッド ウィンドオーケストラ	308名 316名
8	2月26日 14:00～16:00	しあわせに生きる魔法 ～生きてるだけで百点満点～	林 みち子	中止

○教育委員会主催 人権教育事業

事業名	期 日	場 所	人 数
各地区公民館 ・人権コンサート ・人権講演会（一部2部制）	7月～1月 （3回） （6回）	各地区公民館 各地区コミュニティセンター	中止
人権コンサート	10月17日	町民センターホール	192名
人権映画祭 ・映画上映（2部制）	2月26日	町民センターホール	168名

○教育委員会主催 文化事業

事業名	期 日	場 所	人 数
菰野寄席		菰野地区 コミュニティセンター和室	中止
町民盆踊り講習会		菰野地区 コミュニティセンターホール	中止
コボンタフェスティバル	6月27日	菰野町町民センターホール	中止
成人式	1月9日	菰野町町民センターホール 菰野町体育センター	374 (2部制)
プロの音楽家による 課外授業アウトリーチ	12月7日 2月1日	鶯川原小学校 竹永小学校	小学校 4年生

○教育委員会支援文化事業

事業名	期 日	場 所	人 数
第25回菰野町俳句大会	7月17日	菰野町町民センターホール	47名 750句
第11回三滝川燈火祭り & 第33回町民盆踊り大会	8月	三滝川河川敷周辺	中止

○国際交流事業（異国文化とふれあう）

事業名	期 日	場 所	人 数
Spring is coming!（イースターバスケット作り、ゲーム等）	5月12日	菰野町庁舎4階会議室	9名
AZTEC CULTURE（グループゲーム等） アステカ文明	7月14日	菰野町庁舎4階会議室	17名
Birthday!	9月8日	菰野町庁舎4階会議室	中止

welcome to Jessica	11月10日	菰野町庁舎4階会議室	19名
Birthday!	1月12日	菰野町庁舎4階会議室	8名
世界の伝説の生物	3月9日	菰野町庁舎4階会議室	24名

②公民館機能の充実

生涯学習の推進を図るため、町公民館や地区公民館において各種学級、講座を開催するとともに、公民館を趣味のサークルの場として、町民センターや南部公民館、地区公民館等の施設を町民に開放した。

○公民館教室及び講座

	教室、講座名	期間	日時	学習内容	講師名	会場	人数
1	文学講座	7月 ～ 3月	第2・3・4 金曜日の いずれか 13:30～ 15:00	方丈記を読む ～ 古典文学から人生 を学ぶ～	三重県生涯学 習 センター講師 河原徳子	町民センター 会議室	48名
2	親子 ロボット 講座	8月 ～ 3月	第2・3・4 土曜日の いずれか 9:30～ 11:00	ロボット製作を通 して、ものづくりに 必要な 知識、技術を 身につける	株式会社 ロボネット 堀田 武志	町民センター 会議室	親子 24組
3	ガーデニン グ講座	7月 ～ 2月	第3木曜日 9:30～ 11:00	お花やハーブのあ る暮らしをしてみ たい方へ	メイガーデンズ ガーデン デザイナー 柵山 直之	町民センター 会議室	20名
4	ソーシャル メディア 講座	8月 ～ 2月	第1・2・3 月曜日の いずれか 18:30～ 20:00	ソーシャルメディ アの活用等初歩的 な内容	有限会社 ザワン ノブ横地	菰野町庁舎 4階 会議室等	8名
5	びっくり理 科実験教室	8月 ～ 1月	第2・3土 曜日のい ずれか 13:00～ 14:30	様々な理科実験を 行い、“理科博士” を目指す	ロボネット 堀田 武志	町民センター 会議室	13名
6	親子D I Y 教室	7月 ～ 8月	土曜日 13:30～ 15:30	作りたいものを自 分で設計して親子 で一緒に組み立て る。	株式会社 館建築 館 巧	南部公民館 育成センター	10組
7	はじめての ドローン教 室	7月24日 8月21日	9:00～ 10:30 10:30～ 12:00	基本的なルールを 学び、安全で楽しい 操作を覚える。	有限会社 ザワン ノブ横地	南部公民館 育成センター	18組

③図書館サービスの充実

当館は、平成20年4月11日に開館し、現在14年目を迎えており、町民をはじめ近隣市町の利用者の方々の生涯学習の場として、中学生、高校生から高齢者まで幅広い方々に利用いただいている。また、児童書、絵本、紙芝居から育児に関する資料を児童書架に配置するとともに、絵本の読み聞かせ、英語による絵本の読み聞かせ、菰野町に伝わる民話語り等を体感してもらっている。

令和3年度実績について新型コロナウイルス対応による休館や利用制限による減少はあったが、図書開架室の年間入館者数21万人に対し、34万4千冊の図書資料の提供を行い、年度末での平均貸出冊数は新型コロナウイルス発生以前に復している。生涯学習成果発表の場の提供や催事の開催等、滞在交流型図書館として施設運営は密を避けるため利用制限を行った。

また、学校図書館への図書館司書巡回支援を継続することで、児童生徒の読書関心を高める取組みを行っている他、小学生限定の『子ども司書』の卒業生を対象に、中学生以上も図書館に関わってもらうための組織『リトルライブラリアン』が活動できる場を設けている。

ア) 図書館事業

事業名	開催日	時間	場所	備考	参加数
ボランティアのための絵本読み聞かせ教室	4月23日(金)	10:00～11:30	催事室	絵本の読み聞かせの方法や知識についてのボランティア初心者向け講座	21人
リトルライブラリアン	4月～2月 計7回	15:00～、 イベント時を除く	催事室他	小学6年生対象の子ども司書を卒業した中高生に読書推進リーダーとして活躍のできる場を提供	登録者 20人
子どものための絵本ライブ	5月5日(祝)	14:00～14:30	おはなしルーム	職員による、おはなし会(読み聞かせ会)	18人
夏休み読み聞かせスタンプラリー	7月～8月	団体により異なる	おはなしルーム	ボランティアによる、おはなし会(読み聞かせ会)、計23回を予定したが8月のコロナ増加で中止	約50人
夏休み講座【銅鏡づくり】	7月25日(日)	10:00～11:30	催事室	職員による銅鏡作り体験キットを利用した小学生とその家族向け講座、社会教育課と共催	14人
夏休みワクワク工作	8月4日(水)	10:00～11:30	催事室	ボランティアによる紙を使った小学生向け工作教室	15人
子ども司書育成講座	8月～12月 計8回	13:00～16:00	図書館内	小学6年生を対象とする図書館業務体験講座	10人

スカベンジャーハント	8月24日(火)	13:30～ 15:00	図書館内	クイズ方式で図書館内の本を探し当てるゲーム	20人
秋の読書スタンプラリー	10月16日(土) ～ 12月12日(日)		開架室	対象者 図書館利用者 募集人数 中学生以上:50人 小学生以下:70人	111人
大人のための朗読会 おはなしの小箱	10月22日(金)	10:00～ 11:30	催事室	朗読アーティストによる大人向け朗読会	15人
リサイクルフェア	10月30日(土)	9:30～ 16:00	催事室	雑誌等リサイクルフェア (同時入室20名までの人数制限有)	228人
ほがらか絵本畑 しんちゃんの 「読みあそびライブ」	12月19日(日)	10:00～ 11:40	催事室	幼児～小学校3年生と保護者を対象に読み聞かせを交えたイベント (人数制限を行い、同内容で2回開催)	132人

イ) 催事室利用状況

開催日、期間	行事名	主催者名
4月2日(金)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
4月11日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
4月20日(火)	ボランティアのための絵本読み聞かせ講座	菺野町図書館
5月11日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
5月27日(木)	民話がり会議	菺野町図書館
6月4日(金)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
6月8日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
6月13日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
6月29日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
7月4日(日)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
7月8日(木)	ボランティア作業	菺野町図書館
7月13日(火)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
7月25日(日)	夏休み講座【銅鏡づくり】	菺野町図書館
7月27日(火)	教科書展示	菺野町教育委員会
8月1日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
8月4日(水)	夏休みワクワク工作	菺野町図書館
8月8日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
8月23日(月)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
10月3日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館

10月6日(水)	CTYによる郷土資料関係取材撮影	社会教育課
10月10日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
10月12日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
10月15日(金)～17日(日)	菺野町手づくり民話絵本コンクール作品展示	絵本の町づくり文化プロジェクト実行委員会
10月22日(金)	大人のための朗読会おはなしの小箱	菺野町図書館
10月24日(木)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
10月29日(金)	図書館協議会会議	菺野町図書館
10月30日(土)	リサイクルフェア	菺野町図書館
11月7日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
11月13日(土)～14日(日)	寒蘭花展示会	菺野寒蘭保存会
11月16日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
11月19日(金)～21日(日)	書道作品展示	花墨会
11月28日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
12月7日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
12月10日(金)	ボランティア会議	菺野町図書館
12月19日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
1月9日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
1月13日(木)	CTYによる郷土資料関係取材撮影	社会教育課
1月20日(木)	ボランティア作業	菺野町図書館
1月23日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
2月8日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
2月13日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
2月25日(金)	図書館協議会会議	菺野町図書館
3月8日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
3月19日(土)	みつけ！総会	菺野町図書館
3月26日(土)	民話がたり総会	菺野町図書館

ウ) ギャラリー利用状況

開催日、期間	行事名	主催者名
8月5日(木)～17日(火)	平和祈念展(パネル展示)	総務課
10月1日(金)～10日(日)	美雪アートフラワー展	美雪アートフラワー
10月12日(火)～28日(木)	健康づくりポスター展示	健康福祉課
10月29日(金)～11月14日(日)	作品展示(こどもひかりあーと)	菺野町商工会青年部
12月19日(金)～21日(日)	書道作品展示	花墨会
1月8日(土)～11日(火)	全国孔版画愛好者による年賀状展	大羽根園孔版画同好会
1月11日(火)～26日(水)	(ロビー使用) 第20回新春たこあげ大会作品展示	社会教育課
1月12日(水)～21日(金)	夢ツリー展	ガレット
1月26日(水)～2月4日(金)	みえ森と緑の県民税市町交付金等パネル展	観光産業課

2月25日(金)～8日(火)	春の火災予防運動中の予防広報	菺野町消防本部
3月9日(水)～13日(日)	精神障がい者の理解に向けた啓発	健康福祉課

エ) 令和3年度図書館貸出等の状況

開館日数	263日	新規登録者	1,112人
貸出人数	110,885人	貸出冊数	344,181冊
購入冊数	5,903冊	受入冊数	8,143冊

登録者数、蔵書冊数及び購入冊数（令和4年3月31日現在、購入冊数は累計）

登録者数	38,262人	購入冊数	144,438冊
蔵書冊数	179,255冊	※蔵書冊数は、図書資料、AV資料、雑誌の総数	

オ) 研修等の受け入れ実績

①職場体験学習

受け入れ日	摘 要	
11月11日(木)	朝明高校2年生インターンシップ	4名

②各種研修

受け入れ日	摘 要	
7月29日(木)、30日(金)	菺野小学校教諭社会体験研修	4名
8月5日(木)、6日(金)	朝上小学校、千種小学校、八風中学校教諭社会体験研修	4名
8月25日(水)、26日(木)	菺野高等学校教諭社会体験研修	2名

③社会見学・施設見学

受け入れ日	摘 要
10月7日(木)	竹永小学校3年生社会見学
10月28日(木)	朝上小学校3年生社会見学
11月26日(金)	朝上小学校特別支援学級E組(1～6年生)社会見学

④小中学校図書室巡回

学校図書室	巡回	学校図書室	巡回
菺野町立菺野小学校	27回	菺野町立菺野中学校	18回
菺野町立鶴川原小学校	22回	菺野町立八風中学校	20回
菺野町立竹永小学校	22回		
菺野町立朝上小学校	22回	小学校 計	112回
菺野町立千種小学校	19回	中学校 計	38回

⑤ブックトーク訪問

実施日	対象学年	学校名
11月5日(金)	1年生	菰野町立竹永小学校
11月19日(金)		菰野町立千種小学校
11月24日(水)		菰野町立朝上小学校
11月30日(火)		菰野町立鶴川原小学校
12月21日(火)、22日(水)		菰野町立菰野小学校
12月15日(水)、16日(木)	2年生	菰野町立菰野小学校
7月16日(金)	3年生	菰野町立竹永小学校
11月12日(金)		菰野町立朝上小学校
11月25日(木)		菰野町立千種小学校
12月17日(金)		菰野町立鶴川原小学校
10月7日(木)	4年生	菰野町立菰野小学校
1月18日(火)	6年生	菰野町立竹永小学校

⑥学校授業支援

支援日	対象学年	学校名
4月14日(水)	1年生	菰野町立朝上小学校
4月15日(木)		菰野町立千種小学校
4月20日(火)		菰野町立鶴川原小学校
4月30日(金)		菰野町立竹永小学校
5月6日(木)、7日(金)		菰野町立菰野小学校
6月3日(木)、10日(木)	2年生	菰野町立菰野小学校
5月28日(金)	4年生	菰野町立竹永小学校
6月24日(木)		菰野町立菰野小学校
6月15日(火)	5年生	菰野町立竹永小学校
6月10日(木)、17日(木)		菰野町立菰野小学校

⑦蔵書点検支援

支援日	学校名
7月21日(水)	菰野町立菰野小学校
7月28日(水)	菰野町立鶴川原小学校
7月30日(金)	菰野町立竹永小学校
8月3日(火)	菰野町立千種小学校
7月20日(火)、21日(水)	菰野町立菰野中学校

⑧その他支援

支援日	対象学年	学校図書室	内容
1月20日(木)	6年生	菰野町立菰野小学校	本の紹介用POP作り体験

【評価と今後の方向】

図書資料の収集に努めてきた結果、蔵書冊数は17万9千冊となり、図書開架室の入館者数は開館14年間で延べ410万人を数えた。図書開架室に生涯学習室や催事室等を加えた館全体の年間入館者数は28万人を超える。

令和3年度では新型コロナウイルス対応のため8月下旬から9月末まで約5週間の休館を行った。このため貸出冊数他がコロナ以前より減少したままだが、令和2年度よりは回復している。館内各部屋の机、椅子の間隔調整を継続しており、入館者数は減少している。図書開架室に生涯学習室や催事室等を加えた館全体の年間入館者数はコロナ以前と比べ約3割の減である。

「第二次菟野町図書館整備基本計画」に基づき、図書館司書による学校図書館巡回支援を行っており、各種支援活動回数は増加傾向にある。

図書館司書が学校図書館を巡回することで担当教諭や地域の図書ボランティアとの連携として『こもりぶサポーター』の協力を得ている。今後も図書室の環境整備や児童生徒の読書関心を高めるブックトークなど読書支援を継続する。

小学生6年生のみの『子ども司書』に加え、元子ども司書で現在は中高生の生徒による『リトライブラリアン』を組織化し、大人が読ませたい本ではなく自分たちが友達に教えたい本の観点から情報提供やイベントの協力等の運営に関わりを持ってもらっている。

休館は毎週月曜日と第四火曜日、年末年始、蔵書点検期間を休館日としているが平成28年度から、祝日と重なる月曜日は開館している。

また、北部子育て支援センター窓口での図書貸出申し込みや返却本の受け取りは図書館遠隔地における図書館サービスとして継続して行い、利用につなげる。

引き続き図書資料の充実に努めるとともに、生涯学習拠点機能を活かした利用しやすい施設の運営に努める。

(7) 健やかな心身をつくる生涯スポーツの推進

① スポーツ活動の機会と教室、大会などの充実

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言などの影響から一部事業の中止や規模の縮小などを行ったが、コロナ禍においてもできる限り工夫を凝らしながら、事業を行った。

特定非営利活動法人元気アップこものスポーツクラブには、スポーツ教室開催事業を委託し、8種目の子どもを対象としたスポーツ普及、育成教室(16教室)を実施し、スポーツ活動の機会の提供や競技力の向上を図るとともに、町スポーツ協会へスポーツ大会開催事業の助成を行い、競技種目の振興を図った。

例年10月に開催している鈴鹿山麓かもしかハーフマラソンについては、通常のカンパに代わり、スマートフォン等のGPSアプリで開催期間中の累計走行距離により順位を決定するかもしかマラソンオンラインチャレンジを実施し、通常のカンパを令和4年度以降の実施とした。

毎年11月に開催している障がい者スポーツの体験会については、新型コロナウイルス感染症の影響から開催を中止した。

また、三重とこわか国体は中止となったが、公民館や体育施設に設置した体験用のウォールを用いて、町内小学生を対象に、菟野町を会場として開催予定であったボウリングの体験会を開催するなど、普及、啓発活動を行った。

②スポーツ団体の育成や指導者の養成、支援

新型コロナの影響から一部事業の中止などはあったが、マスクの着用や消毒の徹底などコロナ対策を講じながらスポーツ推進委員を通じて、いつでも手軽にできるニュースポーツの普及を促進し、町全域への運動意識の向上を図った。

また、青少年の競技種目の振興を図るため、スポーツ少年団の育成充実を図るとともに、特定非営利活動法人菰野町スポーツ・文化振興会を通じ、各種団体間ネットワーク事業を企画・実施し、スポーツの発展に努めた。

③スポーツ施設の整備、充実

令和3年度における主な施設整備として、菰野町体育センターの外壁修繕を行い、菰野町B&G海洋センターにハードル等の運動器具を収納するため屋外倉庫を設置した。菰野西競技場に小学生用ハードル及び運搬車を導入し、朝明グラウンドに既設の鉄製サッカーゴールに代わるアルミ製の少年用サッカーゴールを設置し、快適に利用できる環境を整えた。

町営の体育館やグラウンドについては、年月の経過により老朽化しているため、順次改修や修繕を実施し、安全に使用してもらえるように努めている。

【評価と今後の方向】

令和3年度については、多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響から中止や延期となったが、その中でも対策を施しながら元気アップこものスポーツクラブ事業や町スポーツ協会の大会などを通じて、多くの住民がスポーツに親しみ、スポーツに対する意識を高めることができた。

また、芸術文化、スポーツの振興を図り、各種団体間のネットワーク事業を企画実施し、地域社会づくりに寄与することを目的として設立された、特定非営利活動法人菰野町スポーツ・文化振興会の事業を、住民自らが参画し協働して実施することによって、発展させることができた。

新型コロナの影響が懸念される中でも、各団体による各種事業への自主的運営が進んできており、また障がい者スポーツへの理解を深めることで、今後も、町民一人ひとりがスポーツへの意識を高め、健康管理しつつ楽しくスポーツができる環境整備に努めるとともに、スポーツに対する受益者負担意識を進め、負担する対価に見合った環境整備と施設の充実を図り、生涯スポーツの実現を目指してさまざまな事業を展開していきたい。

(8) 豊かな文化の継承と創造

①芸術文化活動への支援と交流の促進

菰野町における芸術文化とスポーツの振興を図り、各種団体間のネットワーク事業を企画して実施し、地域社会づくりに寄与することを目的としたNPO法人「菰野町スポーツ・文化振興会」が、芸術文化協会事務局を担当し、活動支援を行っている。

三条市の手づくりしかけ絵本コンクール事務局と菰野町絵本のまちづくり文化プロジェクト実行委員会との交流を計画していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

②有形と無形の文化財や歴史的資産の保存と活用

国指定天然記念物である田光のシデコブシ及び湿地植物群落を良好な状態で保存継承していくため、保存管理計画をもとに、生態系の調査や雑草の刈取りを実施した。

事業名	期日	場所	人数
国指定天然記念物 田光シデコブシ群落観察会		田光シデコブシ群落	中止

③ 郷土愛の育成

郷土の歴史等を理解し親しみを深めてもらえるよう、図書館2階郷土資料コーナーにて、年2回の展示替えなどを行った。また、郷土史に対する問い合わせについては、図書館郷土資料コーナー等において対応した。

さらに小学校3年生を対象として、郷土資料保管庫に収蔵している民具等を活用し、菰野町の地域の歴史や生活などについて、民具等に直に触れながら学ぶ移動郷土資料館を実施した。

○移動郷土資料館

期日	時間	場所	クラス	人数
2月8日	13:45～15:25 (5.6限目)	朝上小学校	2クラス	52名
3月4日	9:40～12:25 (2～4限目)	竹永小学校	3クラス	75名

【評価と今後の方向】

生涯学習の振興を図るため、文化振興事業をはじめ、さまざまな事業に取り組んでいる。また、よもやま歴史教室、かもしかライフカレッジにおいては、自主サークルによる運営委託や協力により、自主的な事業運営に取り組んでもらっている。

青少年育成対策については、青少年育成町民会議を主体として、それぞれの関係団体が青少年の健全育成と非行防止のための取り組みを強化し、町ぐるみで青少年育成活動に取り組んでいる。今後も町民がそれぞれの分野において、自主的、自発的に関わりをもつような事業が増加するよう取り組みを進めていく。

IV 評価委員会の意見

1 教育委員会の運営

- ・菰野小学校は、児童数が1,000人を超えており、適正な規模ではない。配属されている教職員に大きな負担がかからないような対応が必要である。また、運動場の使用の方法などを工夫し、児童が安全に使用できるように配慮する必要がある。
- ・菰野小学校の教室数が不足すると見込まれる間は、プレハブの仮設校舎で対応することだが、より安全で適切な建設場所を検討し、建設中及び設置後の児童の安全面の確保をお願いしたい。
- ・各地域の事情もあり簡単に解決できるものではないが、菰野小学校区の見直しなど、菰野小学校を少しでも適正規模に近づけるために、可能な方策を検討していただきたい。
- ・現在、菰野町内の居住区域が南部の近鉄沿線に集約している。菰野地区にはこれから宅地開発を進めていく土地はもうほとんどないとのことだが、今後将来的に、北部地域に分散させるような町の施策が可能であれば、菰野小学校の一極集中が解消されるものと考えられる。

2 学校教育事務事業

- ・ウクライナでは2月に侵攻が始まり、現在も戦争が続いている。このことが毎日のように報道されおり、子どもたちも嫌でも目にしているだろう。戦争や暴力はいけないと誰もが頭ではわかっているが、現実にはウクライナだけではなく戦争や紛争が世界中のあちこちで起こっている。一言で簡単に教えられるものではないが、平和の大切さを含め、人権教育、道徳教育の一環として、しっかりと教育をしていてもらいたい。
- ・通級指導教室は、現在竹永小学校にしかなく、他校の児童は自分の学校からその時間だけ竹永小学校へ通っているが、通級指導教室が全学校に設置されるのが一番の理想である。他校へ通うとなると保護者の送迎の問題などもあり、通級のハードルが高くなってしまう場合もある。他校へ通級しなくても、自校で児童生徒が必要とする部分だけ取り出して教え、その後、自分の教室へ戻ることのできる体制がとれば、児童生徒の困り感や問題改善に有効である。そのために、通常学級に在籍する児童生徒も取り出して教師が個別に指導ができるよう、教員をギリギリの人数ではなく、余裕のある配置を望む。
- ・少人数の授業は、クラスを二つに分け、担任ともう一人非常勤の教員などが行うものであるため、子どもにとって大変有効な良い手段である。少人数の授業を受け持った教員と担任が、授業後にその日の授業の状況や、子どもの授業の理解度などを話し合い、確認する時間が持てれば、更に有効になるだろう。
- ・道徳教育は、教えるべき中身はあるけれども、それをどう考えさせるかが重要である。教師の力量にも関わってくるものであるが、答えを教えるのではなく、その答えにたどり着くための過程を考えさせることが大切である。
- ・読書活動の推進は、一人一台のタブレットの配付、普及によりどう変わっていくのか、子どもたちの視力や姿勢など、健康面も含めて不安な要素が多い。これからは教科書も含め、読書の在り方がどんどん変化していく。時代の流れに対応しながら、従来の本や教科書の良さも大切にしながら、上手に使い分けていく必要がある。タブレットを使えばよいということではなく、これから ICT 教育を推進していくためには、まだまだ課題が多い。
- ・最近の社会情勢により、女性の働き方も変化し、保育園などへのニーズがどんどん高くなってきている。菰野町の幼児教育は、幼保一体化で進めていることにより、大変充実していると感じる。今後も連携体制の確保に努めてもらいたい。
- ・不登校の対応は、「親」対「学校」という形の単なる責任論にならないように上手く進めてもらいたい。不登校の場合、子どもだけではなく、親も悩み、心配を抱えている。解決するには大変困難な問題が多く、簡単に解決するものではないが、不登校の児童生徒への学校の取り組みや関わり方などを話しあい伝える機会があるだけで、保護者としては安心する部分もあるだろう。今までのように親身になって不登校対策に取り組んでもらいたい。子どもや保護者にとっては、相談できる窓口がたくさんあることが大切で、担任にしか相談できないというのではなく、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど、相談体制の確保及び充実を望む。
- ・部活動の地域移行は大変な問題であると捉えるが、現在、菰野町の中学校の部活動の成績も上がってきているので、是非、総合型地域スポーツクラブを受け皿の中心として、上手く地域移行を進めていてもらいたい。

3 社会教育事務事業

- ・スポーツ愛好者のための事業を展開する「菰野町スポーツ協会」とスポーツ振興を図ることを目的とした「元気アップこものスポーツクラブ」が一本化して更なる活性化を図ることができないかと考える。また、中学校の部活動地域移行の面で、これから「元気アップこものスポーツクラブ」の協力が必要となってくるであろう。
- ・スポーツも文化もコロナ禍でイベント等を開催することは大変困難な状況である。ましてや活性化を図っていくことは本当に難しいと思うが、今後も工夫を凝らして頑張ってもらいたい。

4 図書館事業

- ・ゲーム等の楽しめるアイテムがどんどん発展し、読書離れが進む中、その対応として、学校生活の中で、朝の読書を引き続き継続するなど、少しでも多くの読書の時間を確保していってもらいたい。
- ・ICT環境がこれだけ発展した現在では、読書も実際に従来の紙の本を手にするのではなく、タブレットなどの機器で読書することも多くなっている。紙の本の良さを伝えていくためには、図書館の役割が重要であり、町民からの不要となった本の寄付も含め、図書資料の充実にも努めてもらいたい。